

6年生が職業講話を聞きました

11月12日（火）・13日（水）・14日（木）に、6年生が職業講話を聞きました。



12日は、西保育・教育センターの岩田所長さんに保育士の仕事について話していただきました。保育所の1日の生活や活動、行事などについて話していただきました。また、保育士になろうとしたきっかけや、保育士に必要なこと、仕事の内容、やりがいを教えてくださいました。「子どもと一緒に活動を楽しみ、子どもの笑顔が見られたときにやりがいを感じる」という言葉が印象に残りました。



13日は、瑞穂消防署の廣瀬さんに消防士の仕事について話していただきました。消防士は、火事への対応だけでなく、被災地や様々な場面での救助活動を行っており、24時間対応できるような勤務体制になっていること。また、人の命や財産を救い、二次災害を食い止めるために、具体的な場面を想定した訓練だけでなく、日々最新の知識を学んでいることを教えてくださいました。「消防士になって終わりではなく、なってからたくさん学ばなければいけないことがある。救いたいという思いだけでは助けられないので、日々学び続けている。」という言葉が印象的でした。



14日は、高田機械設計事務所の高田さんに機械設計士の仕事について話していただきました。機械設計士はモノの形を考える仕事で、「こんなものがあったら便利だな」という人の思いからモノのカタチができるということを教えていただきました。また、高田さんは小学生の頃から絵を描いたり工作をしたりすることが好きで、それを仕事にしたいと考え、設計の仕事に就いたそうです。「自分が考え、できあがったものが人の役に立っていることが、やりがいになっている」という言葉が印象的でした。

3人の地域で働く方からの講話から、自分の得意なことや好きなことを知ること、職業に就いたら終わりではなく、そこから努力することが大切であること、どんな仕事にも苦労があるけれど、やりがいがあることを学びました。